

軌道事故に対する迅速な救助、安全管理を確認



立山砂防工事専用軌道(通称「トロッコ」)には、富山県と立山カルデラ砂防博物館が主催する「立山カルデラ砂防体験学習会」など工事関係者以外の方々が年間約2千人乗車しています。こうした方々がトロッコ乗車中での事故発生時に迅速な対応を図れるよう事故対応訓練を毎年実施しており、本年の訓練は平成21年から12回目の訓練となります。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、車内の「3密回避措置」として乗車定員を減らして運行し、砂防体験学習会はトロッコの利用を見送られるなどの対応をしてきました。

したがって本年度は、過去の軌道上の事故事例や安全管理の取り組み、事故発生時の対応等、安全管理上の知識習得を目的とした講義及びレスキューカート等による救助実技を中心に実施しました。訓練は、関係機関及び軌道関係受注者など31名が参加し、安全管理に対する意識を高めるとともに、現場で求められる救助対応について学びました。

日時：令和2年8月6日(木) 14:00~16:00

場所：(講義) 事務所2F会議室
(実技) 訓練軌道0.35kp付近
(千寿ヶ原緑地公園駐車場付近)

参加機関：立山砂防事務所 (公財)立山カルデラ砂防博物館
軌道運行受注者 軌道沿線工事受注者



実技訓練の様子



①人車から怪我人搬出



②レスキューシート⇒担架



③担架搬送



講義の様子

過去事例やマニュアルから、事故対応や安全管理を学ぶ！



④担架⇒レスキューカート



⑤レスキューカート搬送



⑥モーターカー搬送